

チャレンジクラスの取組

個に応じた特別の教育課程の編成・実施に向けた
研究開発学校としての取組

1 東京都独自の取組 チャレンジクラスの設置

学びの多様化学校の概要

- 文部科学省が指定した学校において、不登校児童・生徒の実態に配慮し、年間授業時数の削減など柔軟な教育課程と教員による指導を実施
⇒ 全国58校のうち、都内公立9校(本校型1、分教室型8)

学びの多様化学校のよさと課題

- ☆ 自分に合った学びを通して意欲を高める子供が増加
- ☆ 相談・指導を受けていない生徒の割合が減少
- ▲ 経費・土地・施設の確保が難しく、新規設置が進んでいない
- ▲ 自宅近くの学校で学びたい生徒のニーズへの対応
- ▲ 本校の生徒等と関わる機会が限定的

R6の施策

学びの多様化学校と同様の取組が校内ができるよう、都独自の「チャレンジクラス」を設置

R6:チャレンジクラスの概要

- 公立中学校10校の校内への設置支援を行い、複数の教員を配置して、経費を補助
- 設置校の教育課程に基づき、不登校生徒の実態に応じたゆとりある生活時程の実現
- 校内施設の利用や通常学級との交流が容易

R6:チャレンジクラスの成果

- 出席率の上昇
 - 学習意欲や学力の向上
 - 通常の学級の生徒と共に、全校行事に参加
- 国には、定期的に成果を報告

R6チャレンジクラスの成果等を踏まえたR7の取組

設置校の教育課程ではチャレンジクラスに在籍する生徒の実態と合わず、
指導と評価が難しいケースあり → 一人一人に応じた教育課程の編成が必要

- R7は新規4校を追加し、R6の10校と合わせて14校の設置支援
- ※ 新規4校についても、既存10校で蓄積されたノウハウを生かす

R7 チャレンジクラス14校による研究の方向性(国:研究開発学校)

一人一人の生徒の学習進度や実態に応じた特別の教育課程編成の在り方を研究

個々の得意・不得意を生かした学習

情緒を安定させた生活

感情や行動のコントロール

参加できる活動の増加

自分の思いや考えを伝える

友達と関わることができる

初めての人でも話せる

チャレンジクラスにおける「多様な個性や特性、背景を有する子供たちを包摂する柔軟な教育課程の編成」の制度化の実現

研究開発学校としての取組(令和7年度～)

○ 個に応じた特別の教育課程の編成・実施及び個別の指導計画等に基づいた評価の在り方を構築する研究開発

- ・年間の総授業時数を665時間程度とし、ゆとりある生活時程を設定
- ・必要に応じて特色ある教科を新設(「個別学習」、「チャレンジタイム」、「プログラミング」など)
- ・個別の支援計画や指導計画などを踏まえた個に応じた特別の教育課程の編成とそれに基づく評価

チャレンジクラスの実践事例



江戸川区立篠崎中学校

- ・学年の枠を超えた個に応じた習熟度別の学習
- ・TT等によって、個に応じたきめ細かい指導を行い、支援のノウハウを設置校全体で共有

墨田区立桜堤中学校

- ・学びの保障のためのオンライン双方向授業
- ・登校できない生徒にも学校とのつながりを創出し、学習の遅れに対する不安を軽減

日野市立三沢中学校

- ・「チャレンジタイム」という教科を新設
- ・栽培をテーマにした探究活動を通した「自己決定の場」の設定及び学習や登校意欲等の醸成

チャレンジクラスの成果

○ 令和7年度の出席状況(令和7年10月)

項目	割合
入級前に比べて出席状況が改善している生徒	67.1%

○ 生徒アンケート(令和7年7月)

項目	割合
チャレンジクラスに入って学習ができるようになった	79.5%

○ 生徒・保護者アンケート自由記述(令和7年7月)

	入級後の変化	チャレンジクラスについて感じていること
第2学年生徒	自分が数学などで分からなかつた問題を解けるようになった。	チャレンジクラスがなかったら僕は今頃ずっと家に引きこもっていたと思う。自分が通っている学校にチャレンジクラスがあってとても助かっています。チャレンジクラスのおかげで通常クラスとも関われるようになり、とても感謝しています。
第1学年保護者	(子供に)自分でやるという姿勢が見られるようになった。	「今日も登校するんだ」と心の中で驚き、本人がチャレンジする姿を頼もしく思いながら、毎日見送っています。1日の生活時間が長くも短くもなく、とても良いと思います。子供の成長を毎日感じられ、学校生活の大切さを改めて認識しております。

2 個に応じた特別の教育課程の編成における個別の指導計画についての研究

チャレンジクラスで実施する教育課程

個別の支援計画 1 (個別様式 1)

氏名	性別	現在の学年	年	級	年度	西暦	作成日							
			年	級	入学期	年								
			年	級	進学先									
			年	級										
			年	級										
			年	級										
			年	級										
月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
出社する月日数														
出社日														
内学期就学日(月日)														
欠席日														
不登校による欠席														
※各種団体などの割り当てや教育支援センター、社長が指導者登録上出社日をいしている民間団体など														
社員登録	①登録者名	②姓氏	③副姓氏	④生年月日	⑤生年月日	⑥生年月日	⑦生年月日	⑧生年月日	⑨生年月日	⑩生年月日	⑪生年月日	⑫生年月日	⑬生年月日	⑭生年月日
()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()
利用している学校外の関連機関														
現在の状況・様子														
種別											ニモ			
保健											二名			
医療											二名			
運動											二名			
体育											二名			
保育											二名			
社会活動											二名			
その他											二名			
特徴・その他														
良さ・長所														

個別の指導計画

※研究開発学校として 各学校が開発中

一人一人の実態に応じた個別の支援計画と指導計画

※個別の支援計画は東京都教育委員会が示す様式を参考に、各地区や学校で様式を定める。

チャレンジクラス独自の授業時数・生活時程・新設教科・相談体制等

※設置者である地区教育委員会に、設置校内でチャレンジクラスが
独自に行う事項について、教育課程届出の補助資料として提出する。

基本的に設置校の教育課程に基づく

※設置校は、教育課程の届出において、設置者である地区教育委員会の管理運営に関する規則に基づき、不登校生徒への支援の一つとして、チャレンジクラスの設置を明記する。

<設置校における一人一人の実態に応じた支援を行うための生活時程及び時間割例>								
通常学級	チャレンジクラス	生活時程	月	火	水	木	金	
1校時		～9：30	登校					
		9：30～9：35	朝の学級活動					
		9：35～9：45	リフレッシュタイム（軽運動）					
2校時	1校時	9：50～10：40	学活	社会	道徳	英語	保体	
3校時	2校時	10：50～11：40	国語	英語	理科	理科	数学	
4校時	3校時	11：50～12：40	技術/家庭	数学	保体	国語	社会	
		12：50～13：10	給食					
		13：10～13：30	昼休み					
5校時	4校時	13：35～14：25	総合	音楽	△	美術	総合	
6校時		14：30～14：40	清掃					
		14：40～14：50	帰りの学級活動					
		15：00	下校					

2 個に応じた特別の教育課程の編成における個別の指導計画についての研究

個に応じた特別の教育課程の編成にあたっては、**学習計画を子供が自己選択・決定するプロセス**が大切

関係者間の**連携の取りやすさ、運用のしやすさ**を追究する必要性

定期的に教育課程全体を見直して**軌道修正**することや**持続可能性**に課題

「個別の指導計画」の研究開発における基本的な考え方

ア 指導計画と学習計画の一体化

→「**学びのシート**」とし、生徒自身が学習内容や方法を決定

イ 学習・指導内容のデータベース化

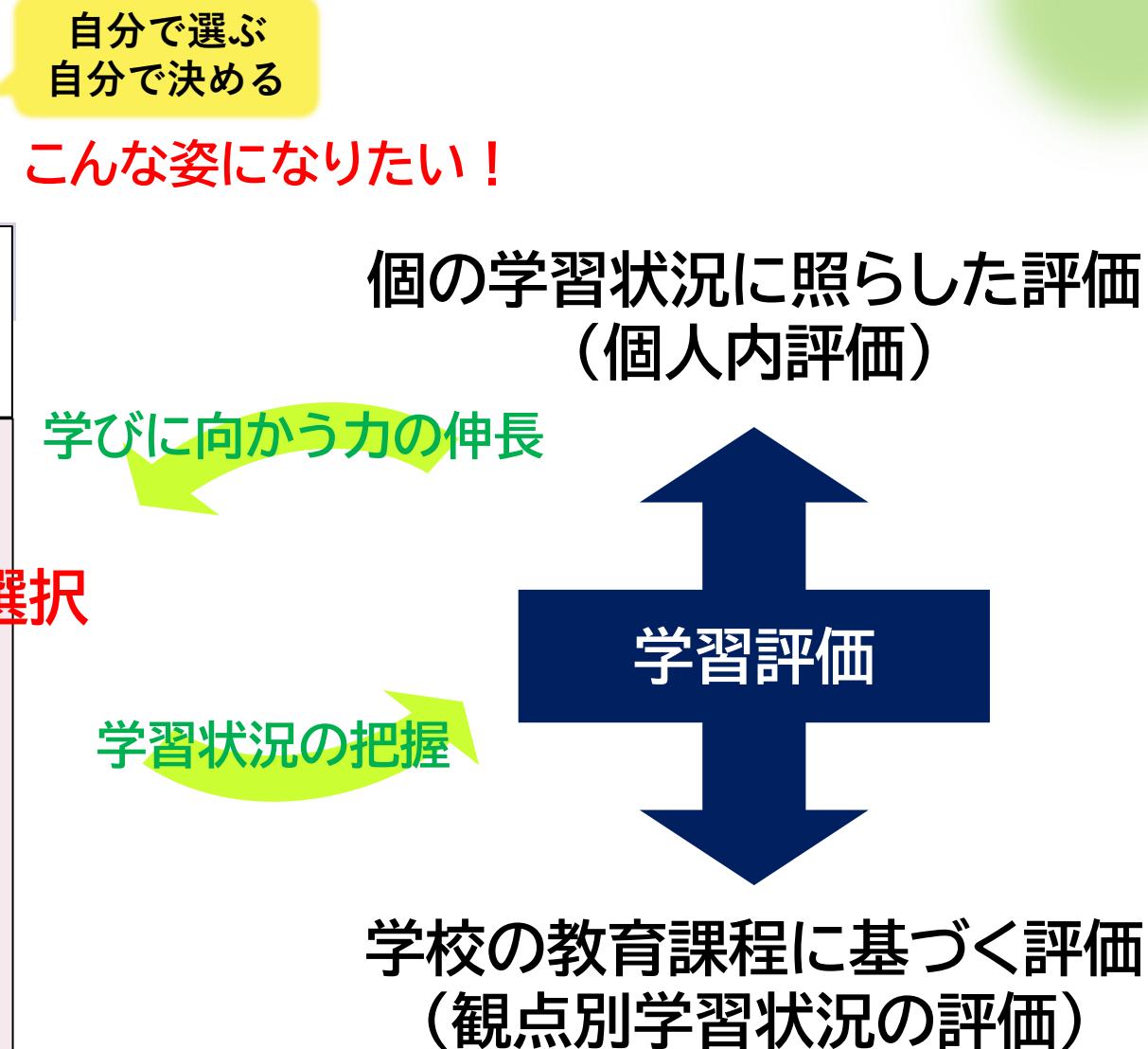
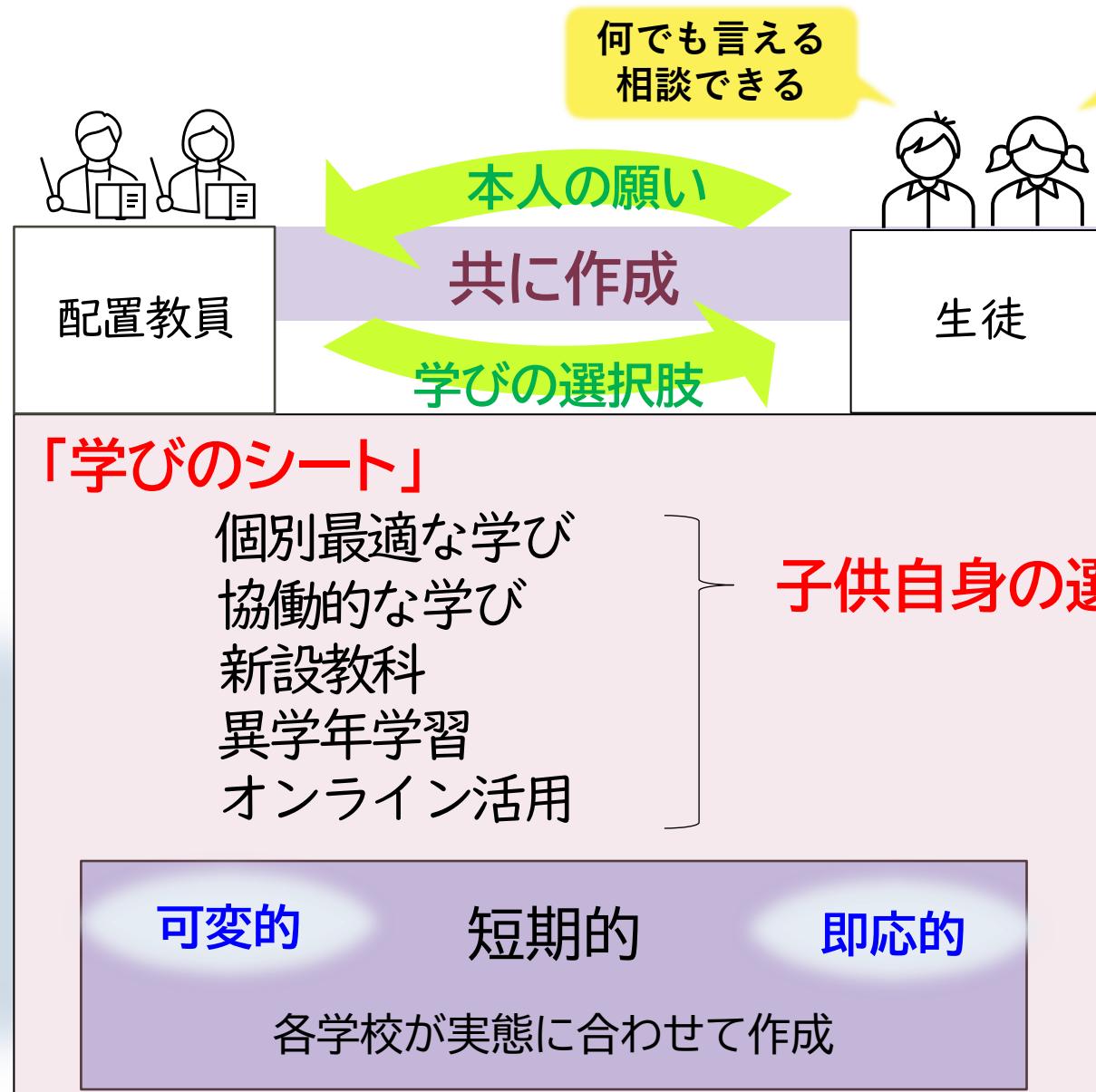
→学ぶべき内容を手軽に参照

ウ 単元等の短いスパンで可変的・即応的に、そしてシンプルに

→出席状況が移り変わる生徒への対応

→教員への負担を考慮し、持続可能な形で運用

(1) 生徒と共に作る「学びのシート」(個別の指導計画)



(1) 生徒と共に作る「学びのシート」(個別の指導計画)



＜個別の支援計画＞

個別の支援計画 1 (個別様式 1)

氏名	性別	現在の学年	年	組	年度	西暦	作成日																														
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 入学前の歴史 進学先 </div>																																					
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 月 出席すべき日数 出席日数 内学級以外(※) 欠席日数 不登校による欠席 </div>		<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%;">4月</td> <td style="width: 10%;">5月</td> <td style="width: 10%;">6月</td> <td style="width: 10%;">7月</td> <td style="width: 10%;">8月</td> <td style="width: 10%;">9月</td> <td style="width: 10%;">10月</td> <td style="width: 10%;">11月</td> <td style="width: 10%;">12月</td> <td style="width: 10%;">1月</td> <td style="width: 10%;">2月</td> <td style="width: 10%;">3月</td> <td style="width: 10%;">合計</td> </tr> <tr> <td> </td> </tr> </table>										4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計													
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計																							

※保健室などの別室や教育支援センター、校長が指導要線上出席扱いとしている民間施設など

対象者

①学級担任	②校長	③副校長	④主幹教諭	⑤生活指導主任	⑥養護教諭	⑦特別支援コーディネーター	⑧その他	⑨の具体的な対応者
()	()	()	()	()	()	()	()	()

利用している学校外の関係機関

<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 身 睡眠 食事 運動 </div>	現在の状況・様子	特徴・その他	良さ・長所
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> ここを クリック </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> ここを クリック </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> ここを クリック </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> ここを クリック </div>

＜個別の指導計画＞ = ＜学習計画＞

「学びのシート」

短期的

各学校が実態に合わせて作成

(2) 学びのシートの開発事例

<A中学校の例> 個別の支援計画との関連や、シンプルな運用を進めている例

個別指導計画(後期用)				令和 年 月 日 作成
年 組 番	生徒 氏名	作成者 氏名		
本年度の目標				指導の手立て
	【本人】			【保護者】
願い				
場面	短期目標	具体的な指導	評 価	
学習				



2ページ目が個別の支援計画になっている。

学校生活支援シート				
学校名	学年	担任(記入者)氏名	記入年月日	
フリガナ	中1			
氏名	中2			
生年月日	平成 年 月 日	男・女	中3	
生活 学習 進路 等	本人の願い・ニーズなど		保護者の願い・ニーズなど	
診断名 服薬等			発達検査の結果など	
現在の 連携機関	家庭・地域・余暇	教 育	健康・医療・療育	福祉・就労・その他の

- ◎ 中期的な目標や願いを基に**学習の短期目標を設定**
- ◎ **個別の支援計画を同じファイル内で管理**
- ◎ 生徒の実態や考えを踏まえて具体的な指導を計画
- ◎ 短期目標に対する評価を記録



(2) 学びのシートの開発事例

<B中学校の例> 個別の支援計画との関連に取り組んでいる例

チャレンジクラス 【学びのシート】 作成日： 年 月 日					
1. 本人に関する情報					
①氏名 (フリガナ)		②学年・組 年・組	③担任		
④自分分析（自分が思う自分）					
明るい	気配りができる	話し上手	怒りやすい	読むのが苦手	
優しい	粘り強い	聞き上手	緊張しやすい	書くのが苦手	
穏やか	褒め上手	読み上手	落ち着きがない	その他	
⑤主な実態					
趣味・興味・ 好きなこと					
苦手なこと・ 嫌いなこと					
学校生活で 不安なこと					
⑥願い					
本人の願い こうなりたい	生活面				
	学習面				
保護者の願い	生活面				
	学習面				

2. 目標 【前期】						
生活目標	設定日： 年 月 日					
	○					
具体的な手立て：						
生活目標 評価・ 振り返り	○					
	具体的な手立て：					
記入日： 年 月 日						
本人：						
教員：						
学習目標	設定日： 年 月 日					
	教科					
具体的な手立て：						
学習目標	教科					
	具体的な手立て：					
記入日： 年 月 日						

- ※ 生徒の自己分析
 ※ 面談により実態や願いを把握
 ※ 生活目標と学習目標を併記
 ※ 評価は生徒本人と教員双方が記入
 ※ 次年度への引継ぎ資料としての活用想定



(2) 学びのシートの開発事例

<C中学校の例> 学習・指導内容のデータベース化を進めている例

学びのシート（短期個別指導計画）				
教科	単元名と主な内容	具体的な目標と使用教材	生徒名 中学校 評価と次の目標	担当 自己評価及びコメント
国語	《単元名》 1. 文学的な文章	《具体的な目標》 描写や伏線を手がかりに、登場人物の心情やその変化を丁寧に読み取る。	《評価》 情景描写が人物の心理状態を暗示していることを的確に指摘し、叙述を根拠に論理的に説明できる。	《自己評価》
	《主な内容》 ①物語の伏線と心情	《使用教材》 教科書 クロムブック 独自教材	《次の目標》 象徴的な語句（色や音など）が作品全体で果たす役割を分析する。	《コメント》
	《単元名》			《自己評価》

- ✿ 面談で各教科の短期目標を設定
- ✿ 単元名や内容等をデータベース化
- ✿ 評価規準を明示
- ✿ 次の目標や生徒の自己評価
- ✿ 教師のコメント



(2) 学びのシートの開発事例

<D中学校の例> 学習計画と指導計画の一体化を進めている例

個別の指導計画【学びのシート】															<input type="checkbox"/> 新規	<input type="checkbox"/> 継続	令和	年度	月	個票番号										
中学校	学年・組	年	組	番	氏名	保護者 氏名	入級日	令和	年	月	入級	前籍校	担当																	
学習面での願い・短期目標															短期目標															
本人			保護者												短期目標															
各教科目標																														
ステップ①			設定日	月	ステップ②			設定日	月	ステップ③			設定日	月																
目標・学習内容・手立て			目標に対しての評価		目標・学習内容・手立て			目標に対しての評価		目標・学習内容・手立て			目標に対しての評価																	
国語	目標 内容等					目標	目標 内容等					目標	目標 内容等																	
社会												目標									目標				目標					
数学												目標									目標				目標					

- ⌚ 生徒がオンライン上に入力した内容を反映
- ⌚ 学習面の本人の願い→**短期目標**
- ⌚ **面談**により目標・内容・方法を決定
- ⌚ 保護者も内容を確認



2 個に応じた特別の教育課程の編成における個別の指導計画についての研究

✓ 「学びのシート」(個別の指導計画)作成の取組を通して見てきたこと

	成果	課題
生徒 	<ul style="list-style-type: none">・学習の見通しと振り返り・学習として取り組んだ履歴・達成感の獲得と更なる学習意欲・教員への信頼感・安心感	<ul style="list-style-type: none">・学習内容の決定・適切で納得できる目標設定と学習量の調整・得意や好きな教科等への偏り
教員 	<ul style="list-style-type: none">・個に応じた指導の記録・生徒理解の深まり・生徒との信頼関係の構築・教員間(指導者間)の情報共有・家庭との連携	<ul style="list-style-type: none">・教科の専門性、指導技術の向上・作成の対象や範囲等の明確化・指導途中で計画変更が必要な生徒への対応・適切な情報管理

2 個に応じた特別の教育課程の編成における個別の指導計画についての研究

✓ 個別の指導計画の作成に必要と考えられること

【項目】

- 学習者の基礎情報(氏名・学籍情報等)
- 指導の目標
- 指導の内容・方法
- 評価規準



【作成のプロセス】

- アセスメントの実施
- 学習者の自己決定
- 保護者の理解
- 校長の承認



3 不登校児童生徒の実態に配慮した特別の教育課程における評価について

- 生徒の学習意欲に応えるフィードバック(広い意味での評価)として行っていること、有効だと感じていること

〔チャレンジクラス教員の回答〕(令和7年12月)

- 本人が頑張ったことなどを文章で記述し所見による評価を行う。
- 授業内での声掛けなど、生徒の学習への取組や小さな学習成果をその場で認める。
- 学習成果物の掲示や授業での話題にしたりして、他の生徒に学習成果を知ってもらう。
- 学習直後に小テストを行う。
- オンラインで取り組んだ課題を評価する。

【評価のポイント】

学習への取組や成果が他者に肯定的に認められること

3 不登校児童生徒の実態に配慮した特別の教育課程における評価について

〔評価の方向性(検討中)〕

- 個の学習状況に照らした個人内評価が中心
- 個別の指導計画に、評価規準や方法を明示
- 指導の内容により、学校の教育課程に基づいて、観点別学習状況の評価を行うことも柔軟に対応

不登校の子供にとって、「学んだこと」
そのものが認められることが大切



個に応じた学びが、公的に認められる
制度設計を期待